

事務事業の概要・計画 (PLAN)

| | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|---|------|-------------|-------------------|---|--|-----|---------|---------------|---------------------|--|--|--|
| 事務事業名 | クラフトの里管理運営事業 | 会計名称 | 一般会計 | | | | 担当課 | 経済雇用戦略課 | | | | | |
| | | 予算科目 | 7 款 1 項 5 目 | 事業番号 | 3290 | | | 所属長名 | 大谷基文 | | | | |
| 事業評価の有無 | <input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業（事業の概要・結果のみ） | | | | | | | | 担当責任者名 | | | | |
| 法令根拠等 | 伊予市なかやまウッドクラフトセンター条例、そば打ち体験施設条例、木工クラフト体験施設条例、伊予市なかやま優良木材活用モデル施設条例 | | | | | | | | 【開始】 平成 17 年度 | | | | |
| 総合計画での位置付け | 産業振興都市の創造 賑わいのある観光の振興 | | | | | | | | 実施期間 | 平成 年度(予定) ■ 設定なし | | | |
| 総合計画における本事業の役割 | 賑わいのある観光振興のため、観光施設のPRを行い、都市住民との交流を図る。 | | | | | | | | | | | | |
| 事業の対象 | 都市住民 | | | 事業の目的 | 木材工芸品の展示販売等を通し、都市住民との交流を促進し、市の活性化に資する。 | | | | | | | | |
| 事業の内容(整備内容) | 木材工芸品等の展示販売、そば打ち体験、木工クラフト製品の展示販売、製作体験。 | | | 昨年度の課題に対する具体的な改善策 | 指定管理者である㈱プロシーズと施設改修・施設運営の内容について、再度協議を行い、利用者の増加や売上の増加が見込めるよう、改修内容を見直す。 | | | | | | | | |

事業活動の内容・成果 (D0)

| 事業費及び財源内訳(千円) | | | | | | | 事業活動の実績(活動指標) | | | | | |
|-------------------------|-----------|--------------------------|--------|--------|--------|--------|---------------|---------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 項目 | 前年度決算 | 当初予算額 | 補正予算額 | 継続費その他 | 翌年度繰越 | 決算額 | 項目 | 単位 | 28年度実績 | 29年度予定 | 9月末の実績 | 29年度実績 |
| 直接事業費 | 6,316 | 6,719 | 66,287 | 10,948 | 14,197 | 58,408 | 入込み客数 販売額 | 人 千円 | 75777 67254 | 75000 66500 | 54298 35723 | 72817 52862 |
| 国庫支出金 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | |
| 県支出金 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | |
| 地方債 | | 0 | 0 | 9,000 | 0 | 43,200 | | | | | | |
| その他 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | |
| 一般財源 | 6,316 | 6,719 | 66,287 | 1,948 | 14,197 | 15,208 | | | | | | |
| 職員の人工(にんく)数 | 0.20 | 0.42 | | | | 0.42 | | | | | | |
| 1人工当たりの人工費単価 | 8,086 | 8,017 | | | | 8,017 | | | | | | |
| ※ 直接事業費+人件費 | 7,933 | 10,086 | | | | 61,775 | | | | | | |
| 主な実施主体 | 株式会社プロシーズ | 実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄) | 指定管理料 | | | | | | | | | |
| 向こう5年間の直接事業費の推移 (千円) | | | | 30年度 | 31年度 | 32年度 | 33年度 | 34年度 | 5年間の合計 | | | |
| 成果指標 | 指標 | 入込み客数 | | | 単位 | ⇒ | 区分年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 目標毎年度 | |
| | | | | | 人 | | 目標 | 75000 | 75000 | 75000 | | |
| | 指標設定の考え方 | 施設活用の効果の判断基準となる入込み客数とする。 | | | | | 実績 | 75777 | 72817 | | | |
| | 指標で表せない効果 | | | | | | | | | | | |

事務事業評価（CHECK）

| | | | | | | | | | | |
|------------------------------------|-------------|-----|---|--|---|---|---|-------------|--|--|
| 新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過) | | | 道の駅化に伴う改修工事の年内スタートに向けて、指定管理者とも協議を行い、準備を進めていく。 | | | | | | | |
| 事務事業の評価 | 自己判定～担当責任者（ | 妥当性 | 目的の妥当性 | 5 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 4 概ね、施策の目的に沿った事業である。 3 この事業では施策の目的を果たすことができない。 | 4 | 合計点が 14～15 : S 10～13 : A 8～9 : B 5～7 : C 3～4 : D | A | 事業成果・工夫した点 | 道の駅化に伴う改修工事については、本年度着工することが出来た。指定管理者の体制も一新したため、改修内容について再度協議を行い、限られた予算のなかで、利用者の増加や売上の向上に繋がるような改修内容（産直部分の改修内容の変更、ウッドクラフトセンター内の整備）を盛り込むことができたと考えている。 | |
| | | | 社会情勢等への対応 | 5 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 4 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 3 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 | 4 | | | 事業の苦労した点・課題 | 道の駅については、国交省へ申請を済ませ、登録を受ける予定となっている。今後は施設の活用方法について、指定管理者とも協議を行い、登録直後の賑わいにとらわれるのことなく、継続的な集客が見込める施設、地域の観光の拠点となる施設となるように運営内容を検討していかたい。また、産直施設部分については、販売する農産物等の品数を確保し、集客に繋がるような形になるよう協議・指導を行っていく必要があると考える。また、そば道場の運営内容については、道の駅内の飲食施設として、今後運用の中でメニューの拡大などを検討していくよう、指定管理者とも協議を続けて行きたい。 | |
| | | | 市の関与の妥当性 | 5 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 4 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 3 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。 | 4 | | | | | |
| | | 有効性 | 事業の効果 | 5 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 4 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 3 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 | 3 | 合計点が 14～15 : S 10～13 : A 8～9 : B 5～7 : C 3～4 : D | A | | | |
| | | | 成果向上の可能性 | 5 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 4 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。 3 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 | 4 | | | | | |
| | | | 施策への貢献度 | 5 施策推進への貢献は最大である。 4 施策推進に向け、効果を認めることができる。 3 施策推進につながっていない。 | 3 | | | | | |
| | 一次判定～所属長（ | 効率性 | 手段の最適性 | 5 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 4 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。 3 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。 | 3 | 合計点が 14～15 : S 10～13 : A 8～9 : B 5～7 : C 3～4 : D | B | 事業の方向性 | ■ 事業継続と判断する。 □ 事業縮小と判断する □ 事業廃止と判断する (判断の理由) 道の駅登録へ向けて、情報・産業・交流・防災の集約拠点となるよう改修工事を進めており、中山地域の活性化のためには必要である施設であり、継続の必要性があると判断する。 | |
| | | | コスト効率 | 5 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 4 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 3 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 | 3 | | | | | |
| | | | 市民（受益者）負担の適正 | 5 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 4 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。 3 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。 | 3 | | | | | |
| | | 効率性 | 目的の妥当性 | 5 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 4 概ね、施策の目的に沿った事業である。 3 この事業では施策の目的を果たすことができない。 | 4 | 合計点が 14～15 : S 10～13 : A 8～9 : B 5～7 : C 3～4 : D | A | | | |
| | | | 社会情勢等への対応 | 5 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 4 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 3 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 | 4 | | | | | |
| | | | 市の関与の妥当性 | 5 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 4 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 3 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。 | 3 | | | | | |
| | | 有効性 | 事業の効果 | 5 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 4 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 3 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 | 4 | 合計点が 14～15 : S 10～13 : A 8～9 : B 5～7 : C 3～4 : D | A | | | |
| | | | 成果向上の可能性 | 5 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 4 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。 3 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 | 3 | | | | | |
| | | | 施策への貢献度 | 5 施策推進への貢献は最大である。 4 施策推進に向け、効果を認めることができる。 3 施策推進につながっていない。 | 4 | | | | | |
| | 評価 | 効率性 | 手段の最適性 | 5 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 4 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。 3 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。 | 3 | 合計点が 14～15 : S 10～13 : A 8～9 : B 5～7 : C 3～4 : D | B | 所属長の課題認識 | 施設改修及び道の駅登録後の施設運営について、指定管理者である株式会社プロシーズを指導していく必要がある。 特に、集客のための農産物等の集荷の確保と充実、商品等の配置、特産品の開発・イベントの実施、接遇等及びそば道場の「こねこね亭」のメニュー等について研究・研修をしていかなければならない。 また、同じ中山地域にある特産品センターとの関係についても検討していく必要がある。 | |
| | | | コスト効率 | 5 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 4 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 3 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 | 3 | | | | | |
| | | | 市民（受益者）負担の適正 | 5 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 4 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。 3 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。 | 3 | | | | | |

| | | | | |
|---|------------------|-------------------------------------|---|--|
| 施 策 を 踏 ま え た 判 断 | 二 次 判 定 | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。 | ⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。 |
| | | | 一次判定結果のとおり事業継続と判断する。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。 | |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> | 一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 7月末に改修工事が完成予定である同施設は「道の駅なかやま」として登録される予定である。今後、中山の玄関口として入込み客数の増加に努める必要があることから行政評価委員会に諮ることとする。 | |
| | | | 一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 | |
| | | <input type="checkbox"/> | 既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。 | |

| | | |
|--|------------------|-------|
| 行政評価委員会の答申 | 外 部 評 価 | 答申の内容 |
| <ul style="list-style-type: none"> 以前英語版のそばのレシピが置いてあった。インパウンドが増える中、おもてなしの気持ちがありいいと思った。 クラフトの里で対応されている方には、売上を少しでも伸ばそうというモチベーションが働く仕組みにしてほしい。 指定管理料の減額が目標のことであったが、利益運動の考え方で、単に固定費を下げるだけでは魅力ある施設作りにはならない。指定管理料の取扱いについては再検討いただきたい。 道の駅がカーブの先にある。今の通行ではなかなか分かりにくいと思う。一工夫いるのかなと思う。 地元産の何かを活用した目玉を作っていただきたい。中山というブランドを生かせる商品を置いてほしい。施設の魅力については、口コミが大事だと思う。 スマートインターチェンジ開通に合わせ、もっと充実したクラフトの里運営ができるようにしてほしい。 木材工芸品を目的にするには抵抗がある。クラフトの里にかぶせて推し進めるなら運営の工夫が必要である。 アクセスの問題や施設表示、看板はこれから十分考えていただいた方がいい。 身体障害者の駐車スペースは割合便利が悪い。利用者の意見を聞き、改修する時期が来たときに意見を汲み取ること。 | | |

今後の方向性 (ACTION)

| の経 最 終 者 判 会 議 | 事業の方向性 | コメント欄 | |
|----------------------------------|--------|-------------------------------------|------------------|
| | | <input type="checkbox"/> | さらに重点化する。 |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> | 現状のまま継続する。 |
| | | <input type="checkbox"/> | 右記の点を見直しの上、継続する。 |
| | | <input type="checkbox"/> | 事業の縮小を行う。 |
| | | <input type="checkbox"/> | 事業の休止、廃止を行う。 |